

第14回関西大学FDフォーラム・大学教育学会課題研究
「学士課程教育における共通教育の質保証」合同企画イベント
「学習成果をどう評価するか？— 評価課題とルーブリックの開発 —」(2015年10月3日開催)

事前アンケート集計結果

関西大学教育開発支援センター・大学教育学会課題研究サブテーマ1

山田 嘉徳・森 朋子・岩崎 千晶・田中 俊也(関西大学)・松下 佳代(京都大学)

2015年10月6日

目次

ルーブリックの活用

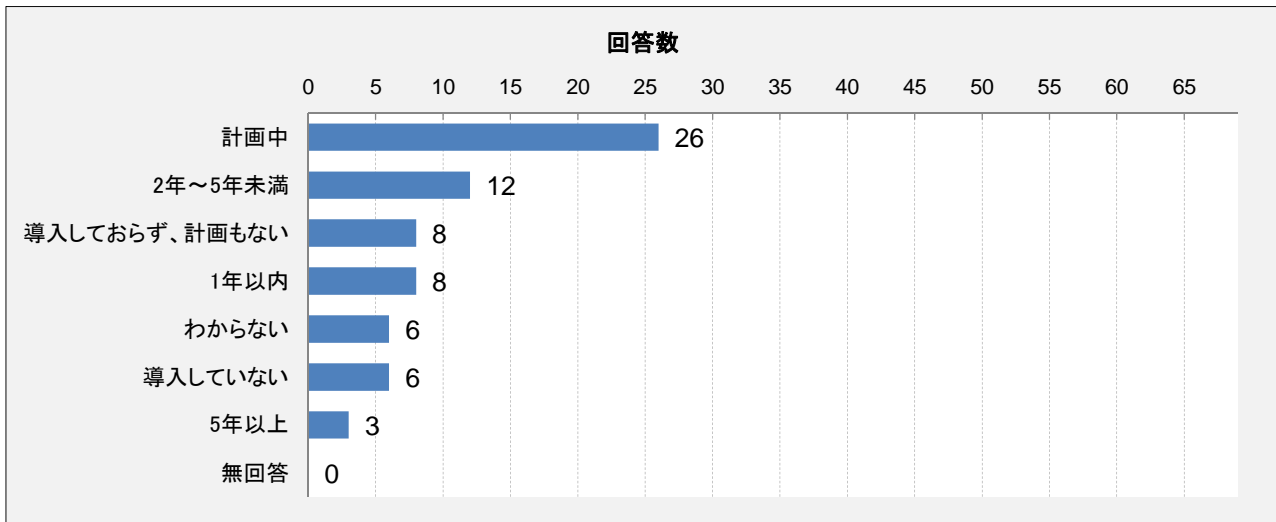
1.ルーブリックの活用期間	1
2.ルーブリックの活用対象・科目	1
2-1.活用対象	1
2-2.活用科目	2
2-3.活用対象・科目名	2
3.ルーブリックの活用時の評価課題	3
4.ルーブリックの活用理由	3
4.活用理由の具体例	4
5.ルーブリックの活用のメリット	4
2-5.活用のメリットの具体例	5
6.ルーブリックの活用の問題点	5
6.活用の問題点の具体例	6

調査票回答者数:69
調査期間:2015年9月25日(金)~10月3日(土)
調査方法:Web上(REAS)

ルーブリックの活用

1.ルーブリックの活用期間

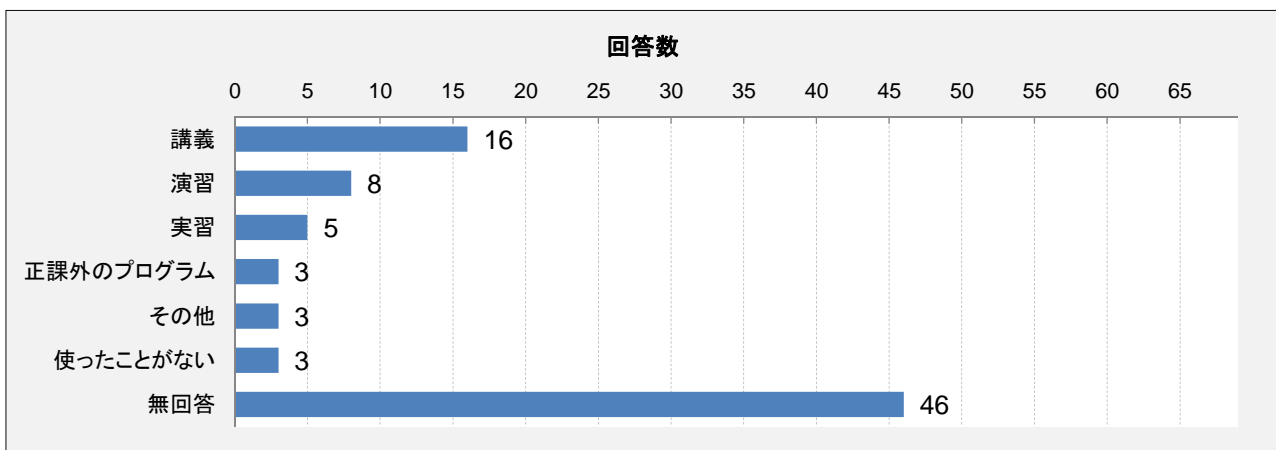
ルーブリックをどのくらいの期間で実施・導入されていますか。



2.ルーブリックの活用対象・科目

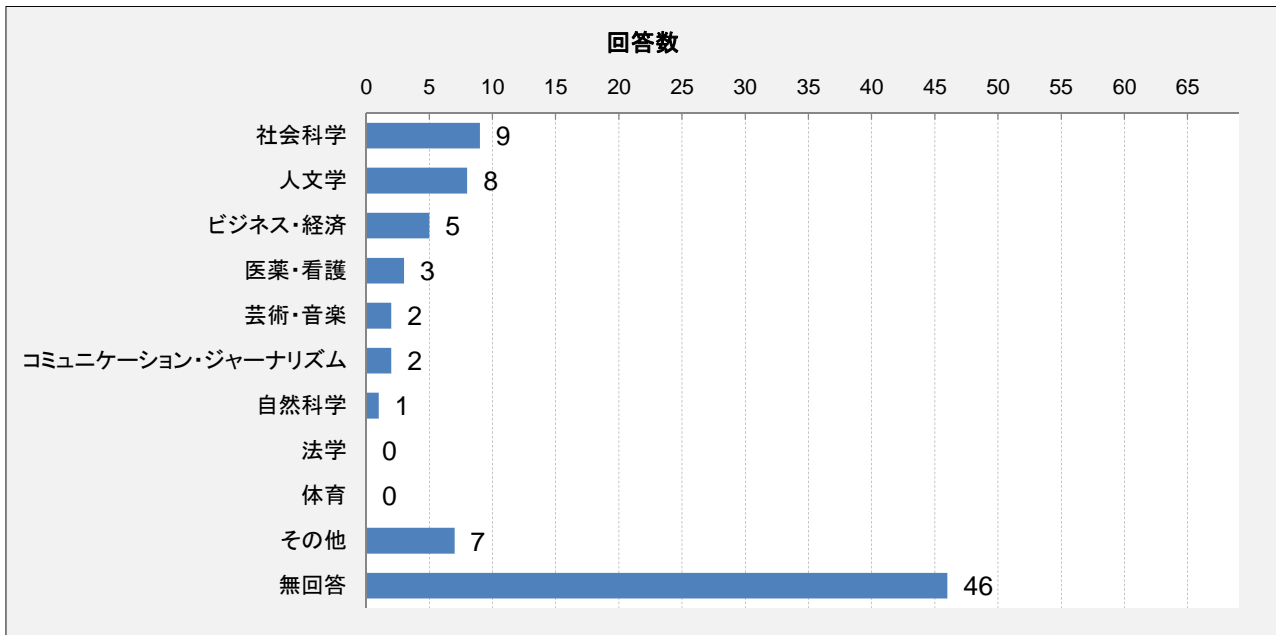
2-1.活用対象

どこでルーブリックを活用していますか(複数選択可能)。



2-2.活用科目

ルーブリックを活用している科目であてはまるものを教えてください(複数選択可能)。



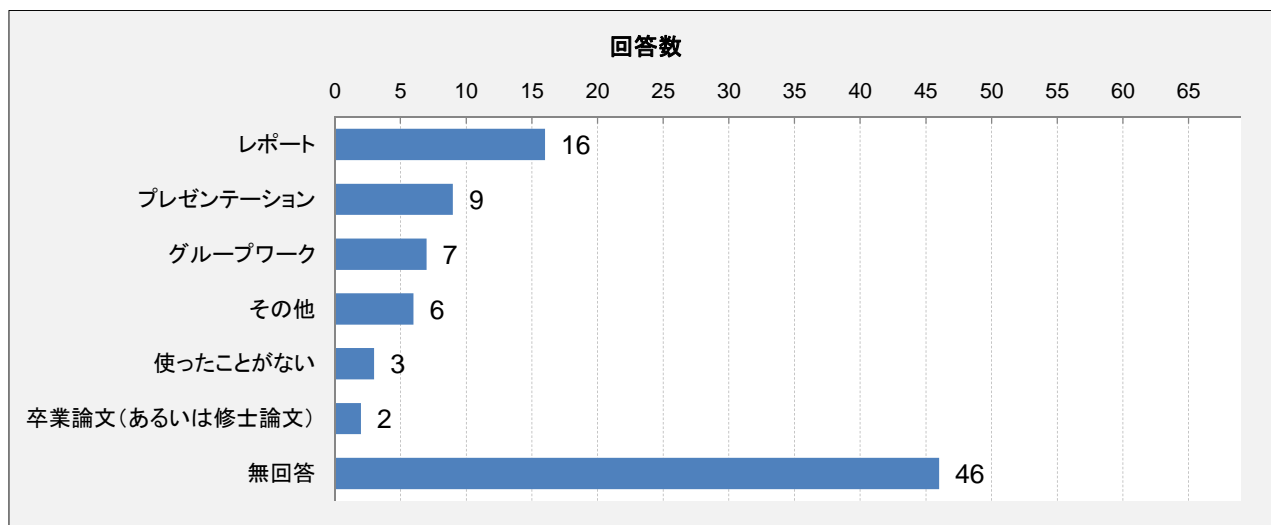
2-3.活用対象・科目名

差し支えなければ科目名や取組名称を教えてください。
(例:教育方法技術論, 教育改革再生加速プログラムの……など)

1	初年次ゼミナール
2	教育社会学(レポート)教育学演習(高等教育論)(グループワーク、レポート)
3	フレッシュマンセミナー
4	AP事業
5	スタートアップゼミナール を来年から全学共通で行います。それに使いたいと検討中です。
6	英語
7	入門ゼミ(初年次教育)
8	授業科目名:『山口と世界』取組名称:文部科学省・大学教育再生加速プログラム
9	教育改革再生加速プログラム(AP)事業にて、大学の評価と企業の人事評価の観点と尺度を摺り合わせるための材料として、インターンシップの取り組みと評価(ルーブリック)を利用。
10	科目名:科学技術者倫理
11	大学教育再生加速プログラム「学修成果の可視化」分野
12	公衆衛生学 公衆栄養学
13	教養教育科目
14	大学教育再生加速プログラム「学修成果の可視化」分野
15	公衆衛生学 公衆栄養学
16	教養教育科目
17	大学学習法、PBLテュートリアル、総合模型実習
18	「キャリアデザイン」
19	ビジネス・リーダーシップ・コーチング
20	文法・文章表現、ライティング
21	ビジネス実務総論、ビジネス実務演習
22	大学間連携共同教育推進事業の主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築

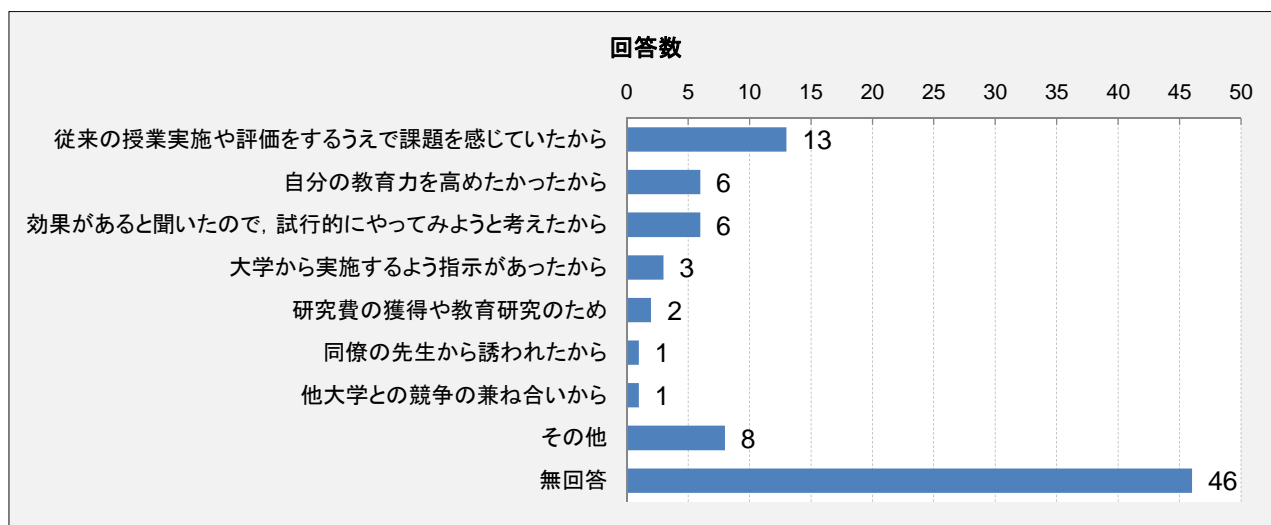
3.ルーブリックの活用時の評価課題

どんな評価課題でルーブリックを活用していますか(複数選択可能)。



4.ルーブリックの活用理由

ルーブリックの活用を始めたきっかけや理由を教えてください(複数回答可能)。



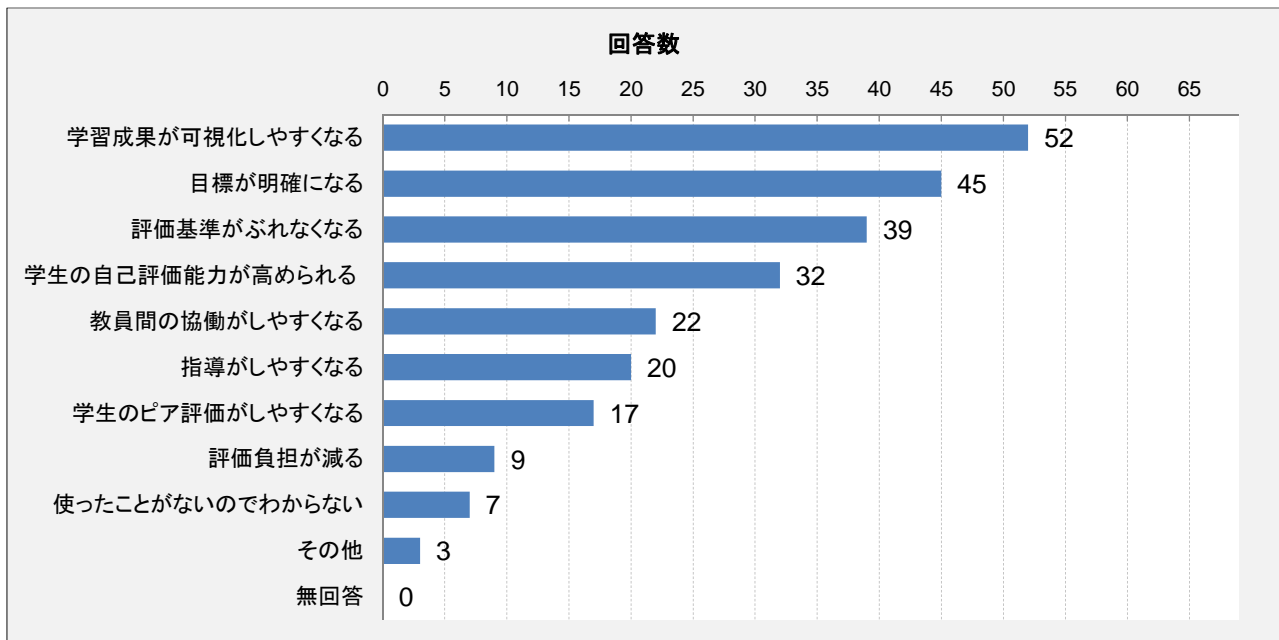
4.活用理由の具体例

「従来の授業実施や評価をするうえで、課題を感じていたから」と回答した方は、その課題の内容を具体的にお書きください。

1	論理的文章とは何かについて学生に共通理解がなかったこと
2	採点に時間がかかる、評価基準がぶれる
3	レポートなど論述形式の試験で、ブレを少なくした採点をしてみたいと思っていた。
4	成績評価のブレの矯正、到達目標との整合性の確認
5	筆記試験の点数やレポートの段階評価だけでは、学生の学習意欲を高めたり、学生自身が成長を実感できたりするようなフィードバックができないこと。
6	レポートなどの評価基準を明確にすることは、教授者と学習者ともにメリットがあると感じていた。教授者側にとってはまずは評価基準の確立させなければならないようにし、かつ評価作業の効率化を行えると考えている。
7	教員の経験的、感覚的な評価尺度を可視化することは、成績評価の質を担保する上で必要と感じていたから。
8	評価の公平性担保や、個別フィードバックの時間節約のため。
9	知識・理解はペーパーテストで評価していたが、それで評価できない能力をどのように評価すればよいか悩んでいた。
10	・FBや採点に時間がかかる・学生が、教員が当該授業で求めていることを把握できていない・第二稿以降で、どう推敲したらいいのかわからない学生がいる
11	知識偏重型授業では、例えば「社会人基礎力」等の就業力を育成できない。
12	評価の揺らぎ

5.ルーブリックの活用のメリット

ルーブリックの活用にはどんなメリットがあるとお考えですか(複数選択可能)。



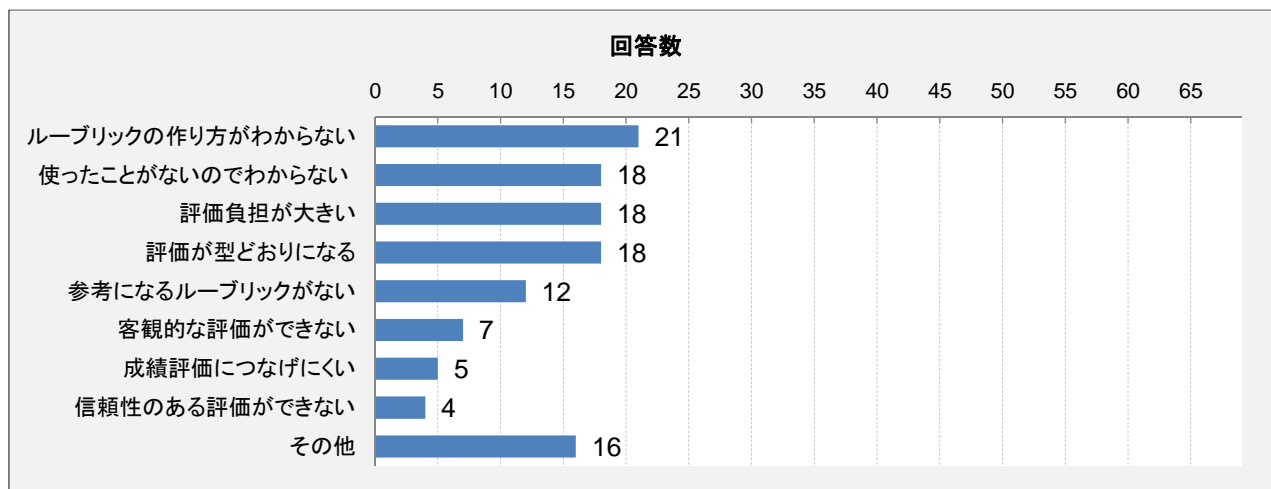
5.活用のメリットの具体例

ルーブリックの活用にメリットを感じられた具体的な事例があればお書きください。

1	結果のフィードバックを通じて、学生から自分の力量の評価と課題の確認が容易になったというコメントがあった。
2	主体的な学びの一助にはなると考えます。
3	学生とのコミュニケーション
4	プレゼンを行わせる前に、学生自身にルーブリックを作らせて、評価を他の学生にしてもらっている。評価基準を自分で決めているため、それを意識してプレゼンできるようになった。
5	事前にルーブリックの項目を学生に提示することによって、事前に論述のポイント等を学生に可視化して提示することができ、学生のレポート作成の一定の指針になっているのではないかと感じる。
6	学生に対しての学習指針提示の効果。ひとまず(善し悪しはあれど)、何についてどこまで要求しているか、どの程度でどのレベルの評価がなされるのかを示すことで、自己評価、振り返りの材料となっているように思われる。
7	組織的に導入していないので客観的な結果は分からないが、個人的に導入している同僚の話などを聞くと、問16で回答したメリットがあると思われる。特に、ピア評価をする際に有効と聞いている。
8	他の受講生のコーチングセッションを観察し、その能力を客観的にピア評価できる力を身につけ、それにより自身のコーチングスキルを振り返り改善するヒントを見出し、成長の機会にもなった
9	成績評価に関して、授業科目ごとに、担当教員等に求められる説明責任を果たすための要件と考えている。教育プログラムの成果検証のための一つの指標として。

6.ルーブリックの活用の問題点

ルーブリックの活用にはどんな問題点があるとお考えですか(複数選択可能)。



6.活用の問題点の具体例

ルーブリックの活用に問題点を感じられた具体的な事例があればお書きください。

1	学生によってはルーブリックを見ても何をすべきか理解できない、ないしルーブリックを踏まえた論文を執筆できない(しない)という現状がある。これはルーブリックをさらに個別具体的な課題にまで降ろして設計すべきということか、当該学生には初年次教育からやり直してもらうほうが良いのかという悩ましい問題となっている。
2	グループ学習の際の評価にどのように活用したらよいか、もう一つわからない。
3	問題解決のルーブリックを作り始めたところであるが、学生が経験した困難および経験の評価において記述語を、多様な状態に対し系全体がとても安定になる解決策である、としたがこの意味は非常に抽象的な統一理論の式で示されるのであり、今のところ誰にもその意味がわからない。またVALUEルーブリックを読んでいて気付いたが、複数の解答が示されている、という意味の記述語を多く見た。学習理論から物事を科学的に見るのは事実上最善策であることがわかっており、統一理論で考えるとこれは、完璧な解答が示されている、に置き換えるべきだろう。つまり、概念ができあがっていないために解答の集合に一部を小さく分けて認識しているのであって、概念を置き換えれば答えは一つに見える。(数学でよく生じる現象である。)
4	決定までに時間がかかる
5	使用した結果にもとづく、最初の調整・洗練化の作業が大変 ←いまここ
6	同僚の経験からは、学生の学習行動がルーブリックに沿った方向に誘導され、飛躍的な発展ができない可能性もあるように見える。ゼミ等の論文・レポートの評価に関し、学科内で組織的導入が何年か前から議論は出ている、案が提示されたこともあるが合意に至らず、むしろ逆提案が複数以上出てきて一本化の可能性は薄い。どこかで作成されたルーブリックが「標準化」されれば良いようにも思う。
7	ピア評価の場合、事前に評価の練習をしても、どうしても主観性が入ったり、温度差、レベル差がでてしまう。
8	・新しい科目を任せられたとき、最初の学期にルーブリックを作るのが難しい・学生は、自身のレポートが最善だと思って提出してくるので、自己評価させるのは難しい・同様に、相互評価させるのも難しい
9	学生の学習経験は決して同一のものとして得るものではなく、基本的に教師と学生との関係性の人間的質に左右されるものである。そうした教育学的本質が見失われ、客観性を装った外在的評価に陥る危険性を感じる。
10	活用に問題点を感じているのではなく、ルーブリックの作り方に習熟していなければ、適切な評価基準となり得ないと考えているから。